

このまちの100年

「佐賀」

佐賀は肥前国の中心地で、奈良時代には国府も置られました。江戸期に入り佐賀藩主・鍋島直茂が佐賀城を改修、城下町の整備も行い商工業が発展。佐賀藩は明治維新で先駆的役割を果たし、日本の近代化に貢献しました。



大正期

龍造寺八幡宮付近から県庁の正面まで延びる県庁前通り



大正15年頃

大正2年、県庁の北側付近に十代佐賀藩主、鍋島直正の銅像が建立され、周辺は銅像園として整備された



昭和初期

昭和51年まで使用されていた国鉄佐賀駅。開業は明治21年



昭和初期

十代佐賀藩主、鍋島直正は御茶屋と呼ばれた別邸をいくつも設けた



昭和30年代

佐賀藩鍋島氏の居城だった佐賀城。鯨の門と続き櫓は、国の重要文化財



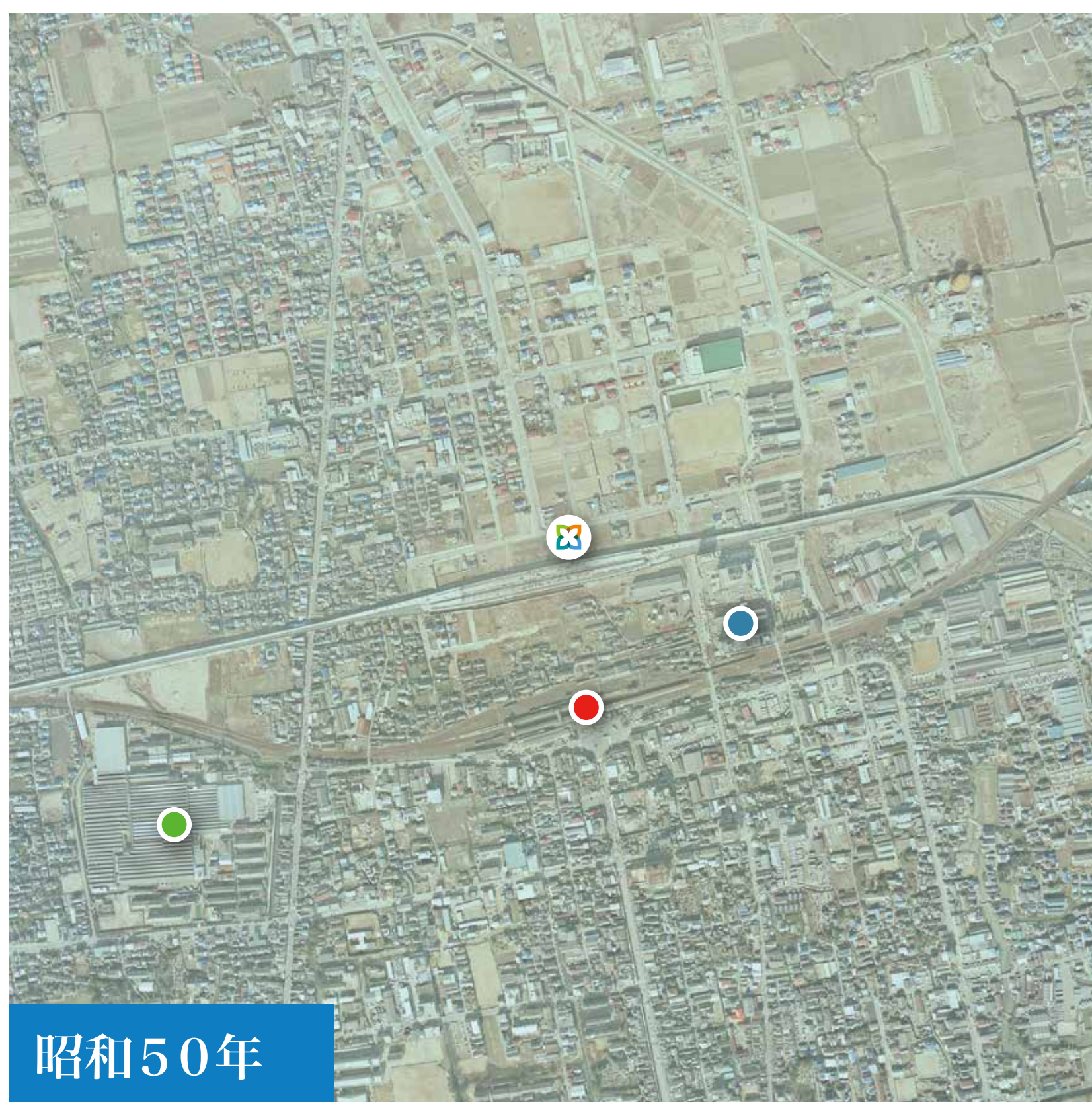
昭和35年頃

明治16年の佐賀県発足以来、佐賀県庁舎は佐賀城址に置かれている

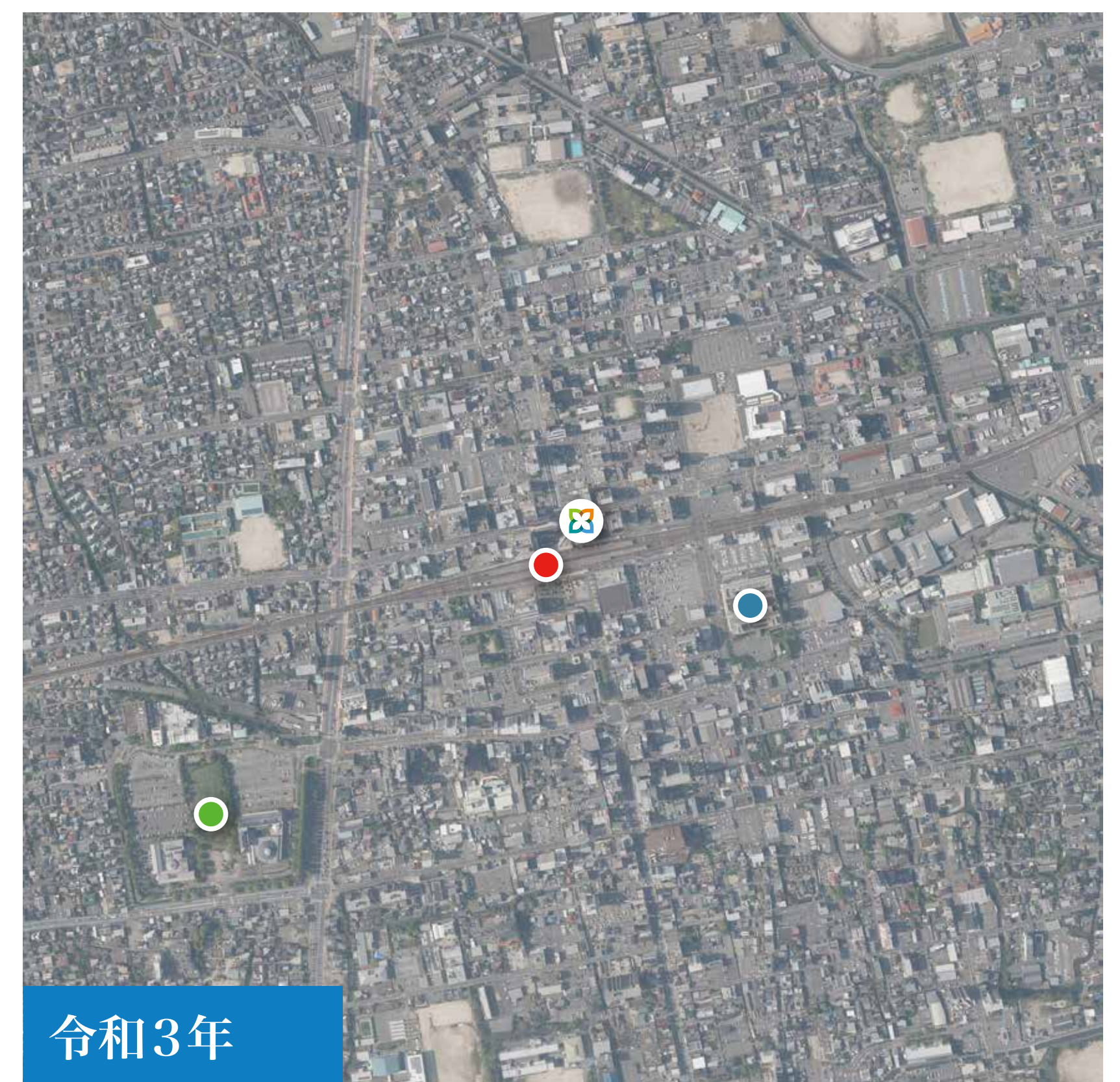
上空からみた佐賀エリア



昭和23年



昭和50年



令和3年

📍：現在地
🔵：佐賀市役所 🟢：大和紡績 佐賀工場／どんどんの森 🔴：佐賀駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」（一部加工）

編集：株式会社コロモチ